

令和2年度 日韓文化交流基金 事業実績

一般会計

1. 自主事業

(1) 第36回日韓文化交流基金韓国訪問団

令和2年9月に派遣の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、実施を見送った。

(2) 第21回日韓文化交流基金賞

上記「第36回日韓文化交流基金訪韓団」の見送りに伴い、本件事業についても候補者の選定作業を中断、延期した。

2. 賛助会員制度

(1) 加入（会費：一口1万円）の状況（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

種別(年会費)	人数/法人数	口数	金額
特別会員(3口以上)	5名	17口	170,000円
個人会員(1口以上)	50名	53口	530,000円
法人会員(5口以上)	2団体	15口	150,000円
計	55名 2団体	—	850,000円

(令和3年3月31日現在有効会員)

特別会員（五十音順）

小野正昭(3) 金春美(3) 中江新(5) 檜崎正博(3) 渡辺浩(3)

計5名

個人会員（五十音順）

青野正明	朝倉敏夫	浅野豊美	阿部孝哉	安倍誠
飯島渉	石川武敏	磯崎典世	稲葉真岐子	李炯喆
林在圭	内田富夫	及川俊男	大竹洋子	河村建夫
菅野修一	木畑洋一	小林直人	小針進(2)	高麗文康
坂井俊樹	阪田恭代	酒匂康裕	櫻井浩	佐藤俊行
鮫島章男(2)	澤岡泰子	宍戸秀行	白川豊	杉山長
高田加代子	田中正敬	塚本壮一	中塚明	中山めぐみ

西澤豊	波田野節子	墨の美術館 濱崎道子	日本民芸館館長 深澤直人	福原裕二
藤田昭造	藤本幸夫	堀泰三	前田二生	馬定延
松井貞夫(2)	實生泰介	茂木敏夫	余田幸夫	和田とも美

計 50 名

法人会員（五十音順）

学校法人城西大学(10)

和光物産株式会社(5)

計 2 団体

(2) 会費収入の使途

(i) 【講演会】

オンライン講演会 “Aspects of Korean Culture and Society” を令和 2 年 11 月から令和 3 年 2 月にかけて計 4 回開催、のべ約 1400 名がオンラインで参加した。

・令和 2 年 11 月 20 日

「映画『パラサイト』と韓国社会のリアル」

（講師：河昇彬 韓国外国語大学校日本研究所研究委員）

・令和 2 年 12 月 18 日

「帝国日本のスポーツと朝鮮人アスリート」

（講師：金誠 札幌大学地域共創学群教授）

・令和 3 年 1 月 15 日

「時代を彩る韓国ドラマの変遷—『冬のソナタ』から『愛の不時着』まで」

（講師：高橋尚子 ライター・編集者）

・令和 3 年 2 月 19 日

「BTS についての一考察 なぜ世界を夢中にさせるのか」

（講師：桑畑優香 ライター・翻訳家）

(ii) 【学術定期刊行物助成】

当基金学術定期刊行物助成事業の対象刊行物 2 点に対する助成金（400,000 円）として活用した。

書名	申請団体
『韓国朝鮮の文化と社会』第 19 号	韓国・朝鮮文化研究会
『現代韓国朝鮮研究』第 20 号	現代韓国朝鮮学会

3. 外務省からの受託事業

(1) 日韓歴史家会議

行事名	開催日	会場
講演会「歴史家の誕生」	令和2年12月11日	東京(オンライン開催)

第20回会議 「越境をめぐる歴史」 参加者：日本側 18名 韓国側 11名	令和2年12月11日 ～12月12日	東京(オンライン開催)
---	-----------------------	-------------

第1特別会計

日韓学術文化・知的交流事業

1.

(1) 助成事業

合計9件(採用は19件)

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	日韓藝術通信5「温度 / 온도(オンド)」	日韓藝術通信実行委員会	令和3年1月12日 ～1月24日
2	第35回日韓学生会議夏季交流大会	第35回日韓学生会議	令和2年8月14日 ～8月22日
3	日韓学生未来会議(Japan Korea Students Future Forum)	第15回日韓学生未来会議準備委員会	令和3年2月20日 ～2月21日
4	宗像フェス日韓環境国際交流	宗像フェスCSR推進実行委員会	令和3年1月27日 ～3月15日
5	「日韓交流おまつり2020 in Seoul」舞踊団正藤派遣事業	舞踊団正藤	令和2年11月10日
6	「日韓交流おまつり2020 in Seoul」喜楽座派遣事業	日本総合伝統芸能集団井坂斗絲幸社中 喜楽座	令和2年11月10日
7	第12回 福岡インディペンデント映画祭2020	福岡インディペンデント映画祭実行委員会	令和2年11月19日 ～11月21日
8	KAAT×東京デスロック『外地の三人姉妹』	一般社団法人 unlock	令和2年12月12日 ～12月20日
9	韓国現代戯曲ドラマリーディング Vol.X	一般社団法人 日韓演劇交流センター	令和3年1月27日 ～1月31日

(2) 学術研究者交流事業 研究者支援コース

(i) 招聘

合計 2名(採用は招聘5名、派遣2名)

No.	氏名	研究テーマ	受入機関	期間
1	裴俊燮	日韓両国の共通課題に対する異なる政策対応のメカニズム	神戸大学大学院	令和2年4月1日～ 9月27日
2	孫仁柱	ポストアメリカンアジア: 日本、韓国、中国	東京大学公共政策大学院	令和2年12月22日 ～令和3年6月19日

2. 情報広報事業

(i) 広報誌

日韓文化交流基金NEWS 93、94、95号刊行。

(ii) ウェブサイト

基金のウェブサイトを継続・運営し事業の広報・情報提供を行っている。

年月	ユーザー数	ページ/ セッション*1	新規訪問の 割合(%)		
令和2年	4月	1426	3.34	62.11	
	5月	1731	3.92	64.78	
	6月	1866	2.95	62.93	
	7月	1842	3.04	62.93	
	8月	1617	3.57	65.11	
	9月	5581	2.14	74.27	
	10月	3976	2.43	65.17	
	11月	6127	2.17	71.73	
	12月	2696	2.88	55.35	
	令和3年	1月	2930	3.01	66.72
		2月	2025	2.84	65.62
		3月	2344	2.91	61.06

* ページ/セッション:セッション中に表示された平均ページ数。同じページが繰り返し表示された場合も集計される。セッションとは期間内の合計セッション数で、ユーザーがウェブサイトやアプリなどに積極的に関わっている期間を指す。すべての使用状況データ(スクリーンビュー、イベント、eコマースなど)はセッションと関係する。

(iii) ツイッター

基金ホームページで更新された情報ほか、日韓両国の交流・協力に関する情報等を発信している。登録者数は1709名(令和3年5月13日現在)。

(iv) フェイスブック

基金が実施する事業の活動の様子などを写真や文章を用いてタイムリーに発信している。登録者数は881名(令和3年5月13日現在)。

第12 特別会計(JENESYS2020)

日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充するための事業。

1. 青少年交流事業(プレプログラム)

「JENESYS 訪日団及び訪韓団」団員に選抜された青少年を対象とし、事後にオフラインでの訪日・訪韓を行うことを前提として、オンライン上でオリエンテーション、講義やオンライン視察を行うプレプログラムを実施した。外務省による最近の日韓関係に関する講義や各団のテーマに沿った講義を設け、日本の外交姿勢や東日本大震災からの復興状況、被災各地の現在の状況の正しい理解につなげ、東京オリンピックパラリンピック韓国ホストタウン都市との交流活動や魅力、日本の防災対策等の取り組みを紹介した。参加者には各団のテーマに沿った課題を与え、プログラム内に成果発表の時間を設けた。

(i) プレプログラム招聘・派遣

合計 2 団体 59 名

No.	団体名	団体数	人数	実施日
1	日韓大学生オンライン交流事業(訪日)	1	29	全 4 回(12 月 19・26 日、1 月 16・23 日)
2	日韓大学生オンライン交流事業(訪韓)	1	30	

(ii) プレプログラム招聘

合計 8 団体 214 名

No.	団体名	団体数	人数	実施日
1	在韓公館選抜事業 韓国青年訪日団 (東京オリパラ韓国ホストタウン視察)	1	11	全 3 回中 2 回実施(2 月 6 日、3 月 6 日; 3 回目は 4/10 に実施)
2	在韓公館選抜事業 韓国大学生訪日団 (第 1~4 団)	4	130	全 6 回中 2 回実施(2 月 20 日、3 月 20 日; 3 回目以降は 4/10、5/8、7/17、7/31 に実施又は実施予定)
3	在韓公館選抜事業 韓国高校生訪日団 (第 1~3 団)	3	73	全 4 回中 1 回実施(3 月 13 日; 2 回目以降は 4/10、5/8、6/12 に実施又は実施予定)

2. 青少年交流事業 (JENESYS フォローアップ事業)

過去に実施した JENESYS 訪日団及び訪韓団の参加経験者(高校生・大学生・社会人)を対象とし、以下のオンラインでのフォローアップを実施した。

(i). 日韓オンライン交流事業

全 4 期: 計 39 日間、延べ 372 名(日本側 196 名、韓国側 176 名)

ビデオ通話システム「Skype」上にグループトークルームを開設し、テーマ(例:「新型コロナウイルスと私たちの生活」、「選挙文化や政治参画意識の違い」等)に基づくディスカッションやフリートークを実施した。第 3 期では日韓両国のマスコミ関係者をゲストに招いた日韓交流に関する討論会、第 4 期では参加者の要望を受け、互いの国の言語を学習中の参加者を主な対象とし、日本語/韓国語で自己紹介や居住地の魅力を伝えあうランゲージエクステンジェを通じた交流を行った。

第 1 期	4 月 20 日(月)~5 月 1 日(金)9 日間(月~金 午前・午後) 延べ 118 名(日本側 58 名、韓国側 60 名)
第 2 期	5 月 12 日(火)~5 月 30 日(土)9 日間(火、木、土 午前・午後) 延べ 101 名(日本側 53 名、韓国側 48 名)
第 3 期	6 月 2 日(火)~6 月 27 日(土)12 日間(火・木午後、土午前・午後) 延べ 85 名(日本側 46 名、韓国側 39 名)
第 4 期	6 月 30 日(火)~7 月 18 日(土)9 日間(火・木午後、土午前・午後)

	延べ 68 名(日本側 39 名、韓国側 29 名) * 第 4 期はランゲージエクステンション版として実施
--	---

(ii). 日韓交流オンライン訪日団

全 5 回: 参加者 113 名(日本側: 34 名、韓国側 79 名)

これまでオフラインで実施してきた訪日事業を、オンライン(ビデオ会議システム「Zoom」使用)上で実施した。本事業の主なプログラム内容としては JENESYS 事業の趣旨を考慮し、日韓両国の若者によるオンライン上での討論等、活発な交流機会の提供を最優先事項として掲げ、日韓相互理解の促進を図るとともに、東日本大震災を題材とした映画鑑賞や監督及び映画出演者によるティーチン、またオンライン上での福島視察等を通じて、被災地各地の現状を広く知らしめることで、韓国国内で根強く残る当該地域への風評被害等を払拭する一助となることを目指した。

①8/29	「最近の日韓関係について学ぶ」 ○オリエンテーションおよび、グループ別交流 ○講義「最近の日韓関係について」 外務省 北東アジア第一課 日韓交流室長 武田克利氏
②9/5	「東日本大震災からの復興について学ぶ」 ○東日本大震災被災地復興ドキュメンタリー映画「一陽来復 Life Goes On」上映 ○尹美亜(ユン・ミア)監督によるティーチン 特別ゲスト: 映画出演者 遠藤伸一氏
③9/12	「福島からのオンライン中継・視察」 ○福島市内から中継視察 ○福島大学学生による発表・レポート ○講義「福島で 20 年～キムチおばさんとして生きて」 NPO 法人ふくかんねっと 理事長 鄭鉉淑(チョン・ヒョンスク)氏
④9/19	「日韓学生討論 -気になることを話し合おう-」 ○グループ別討論及びまとめ ○成果報告会
⑤9/26	「日韓市民交流」 オンライン「日韓交流おまつり 2020 in Tokyo」当基金ブース運営参加および見学

(iii). 日韓教員オンライン交流

全 4 回 参加者: 延べ 67 名(日本教員: 28 名、韓国教員: 39 名)

韓国国立国際教育院と共同で直近 3ヶ年度の日韓の教員交流プログラムの参加者を対象としたオンライン交流をビデオ会議システム「Zoom」を使用し、実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けた日韓両国の教育現場の課題を分かち合い、教員同士の交流をさらに深めることに大きく寄与し、教員間での交流の発展につながり、今後は学校間に拡大した交流も期待される。

	日程内容
①9/9	自己紹介(訪日団/訪韓団で印象に残った経験の発表) 発表(①訪韓団一行受入体験、②日本の学校における防災教育)、質疑応答
②9/23	発表(①学級運営及びプロジェクト授業、②小学校 6 年生のオンライン英語授業の事例)、質疑応答

③10/14	発表(文化芸術教育を通じた交流活動)、自由討論:テーマ「望ましい日韓関係のための教員の役割」
④10/28	特別講義:テーマ「今ここでの韓国文化との疎通」 講師:淑明女子大学 キム・セジュン教授

(了)